

2014年度 明治学院大学 FD活動について

1. FD・教員評価検討委員会開催

開 催	議 題
第1回 5月13日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度の授業評価日程と内容の件 ・今年度のFD推進活動について ・授業・シラバスのPDCAサイクル運用体制について ・2014年度FD委員会予定の件
第2回 10月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度秋学期授業評価実施の件 ・2015年度授業評価調査票改訂の件
第3回 3月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価共通設問案の件 ・要配慮学生の授業評価実施の件 ・FD推進の件

2. 「学生による授業評価」の実施

学期	実施日	実施状況
春学期	6月30日(月)	対象授業 学部 2,101 大学院 68
	～7月12日(土)	実施 学部 1,879 (89.4%) 大学院 53(77.9%)
秋学期	12月4日(木)	対象授業 学部 2,026 大学院 66
	～19日(金)	実施 学部 1,813 (89.5%) 大学院 49(74.2%)

3. FD関連学外研修会等への参加

①	大学コンソーシアム京都開催「第20回 FDフォーラム」 テーマ : 学修支援を問う ～何のために、何をどこまでやるべきか～ 日程 : 2月28、3月1日 参加者 : 鍛冶智也(法学部)、秋月望(国際学部)、張 宏波(教養教育センター)
②	京都大学高等教育研究開発推進センター開催「第21回 大学教育研究フォーラム」 日程 : 3月13・14日 参加者 : 竹尾茂樹(国際学部)、花田安弘(心理学部)

4. 学部・学科のFD活動

文学部
英文学科 2013年度よりこれまで英語を母語とする非常勤講師を対象にして行ってきたミーティングに、日本人非常勤講師を加えた「合同ワークショップ」を開催し、iTunes U (University)をはじめとしたオンラインで利用できるリーディング、リスニング教材についての情報を共有

し、授業で実際に活用できるように教示している。2014年度は English Testing Service (ETS) が提供するクライテリオン (Criterion) を導入し、学生によるライティング、およびリーディングのスコアにフィードバックを与える管理ツールとして授業に取り入れた。

国際交流型協働クラス開発プロジェクト (Collaborative Online International Learning project)

異文化理解、英語対話力向上をめざす体験型学習環境を設置するため、情報通信技術 (ICT) を取り入れた国際交流型協働クラスを実施している。海外の学生とウェブ会議／ビデオ会議を介し、協働チームとしてプロジェクトを行う交流のなかで、学習者が『正確さ』『適切さ』を伴った英語力を習得し、英語でコミュニケーションをとることを不安に思わず、異文化に自然に溶け込んでいける人材育成を目指している。2014 年度は教学改革支援制度の支援を受け、英語基礎科目の一部としてオーストラリア・タスマニア大学と協働クラスを実施し、本学科の英語基礎教育カリキュラムの質的改善を図った。

フランス文学科

フランス文学科では、入学者の大多数を占めるフランス語未修者へのフランス語教育をさらに充実させるため、本学科の学生のニーズやカリキュラム体系に過不足なく適合するようなフランス語教科書を作成すべく、語学教育に熟達した本学科の専任教員 3 名と本学に長年勤務する非常勤講師 1 名からなるチーム (内フランス語ネイティブ 2 名) によって、2011 年度より作業を進めてきた。この教科書が、2014 年度ついに完成、2015 年 1 月、『Accès—くわしく学ぶフランス語の基礎』として朝日出版社より刊行された。この教科書については、すでに 13 年度春には試行版が完成しており、以来、制作に直接あたった教員はもちろん、他の教員もこの試行版を実際の授業において使用してきた。これまでの実績でいうならば、学生の動機づけにおいても、フランス語の習得度においても、他の教科書を使用した時と比べて明らかに改善傾向にあり、また同一の教科書を使用することによって教員相互の教授法の確認もスムーズになったと考えられる。2015 年度以降は、完成版を用いて授業を行うとともに、その後も必要に応じて修正を随時加えながら、本学フランス文学科の学生によりふさわしい教材に育てていくつもりである。

また、教科書の完成にあわせて、フランス語初級以外のすべての授業においてもより効果的な教育を行うために、カリキュラム改革に着手。この改革は、フランス語の授業にさらなる多様性を与えることで学生のさまざまなニーズに応えること、専門教育科目の分類をわかりやすくして学生による授業の選択を容易にすることに主眼を置くものである。2016 年度からの新カリキュラム導入を目指している。

さらに、2014 年度には、パリ・カトリック学院への中期留学制度が始動。7 名の学生が出発し、実りの多い留学生活を送ってくれたようである。今後は、環境の異なる他の都市での開催によって選択肢を広げることも視野に入れつつ、この制度をさらに充実させていくつもりである。

芸術学科

- ・新系列として「総合芸術学系列」の開設
- ・秋学期に樋口隆一芸術学科教授を主担当に、日本レコード協会寄附講座「クリエイティブビジ

ネスと著作権」を開講。履修対象者として学部の枠を超え、文学部、社会学部、経済学部、法学部、法科大学院の学生に開かれた講座で423名の履修登録があった。現場の第一線で活躍している各界のゲスト講師を招き、著作権の基礎知識と現場の対応について学ぶ。好評のため次年度も継続して開講の予定。

・シンポジウム、講演会の開催

7月12日（土）「第18回日本映画シンポジウム『在日』映画の現在」

10月1日（水）「ピエール＝ロラン・エマル×岡部真一郎『同時代音楽—創造の現場』」

12月6日（土）「デューラーの失われた傑作をめぐる—考察—《ヘラー祭壇画》をめぐる」

2月21日（土）「樋口隆一教授最終講義「バッハ研究と私」

・ICTを活用した映像・音響制作を含む授業の実施

・双方向型ワークショップ形式の授業の実施

・授業評価の実施、学科内での情報共有と検討

・学生へのヒアリングの実施

社会学部

社会学科

社会学科では、1年生から4年生まで切れ目なくゼミなどの少人数科目を履修し、それを軸に学生が独自の学習カリキュラムをたて、実践的な学習効果を高められるよう努めてきた。社会学部の入学前教育プログラムなどとあわせて、最初の2年で「社会学をつかう」力をつちかい、後半の2年でそれを独自の研究成果につなげることを基本としている。

2013年度から準備を開始した前半2年間の少人数クラスのカリキュラムが、2014年度に完成した。今年度の特筆すべき活動として、下記のようなものがある。

1. 科目の新設・充実など

(1) 「アカデミックリテラシー」(1年次春学期)の継承と充実

2013年度に、論理的な思考、読解、記述、議論のための基礎的な力をつけることに重点を置く「アカデミックリテラシー」を開設した。2014年度も、前年度の反省を踏まえ各回の授業内容を見直したうえで、教養教育センターからも兼任教員の援助を受け、カリキュラムの充実を図った。

(2) 「社会学基礎演習」(1年次秋学期)の継承と充実

「社会学をつかう」ことを重点とする「社会学基礎演習」(要求科目)についても、前年度の反省を踏まえ各回の授業内容を見直したうえで開講した。講義・テキスト読解とグループワークを組み合わせ、教育効果を高めた。

(3) 「表現法演習」「質的データ分析」(2年次秋学期)の選択必修化

2014年度から2年次秋学期の少人数クラスとして「表現法演習」を開設し、従来から存在する「質的データ分析」とあわせて選択必修とした。表現法演習では、受講した学生が制作した作品を報告書などにまとめ次年度への継承を試みた。また、下記に述べる学科研修会にて今年度の反省点を学科の全教員で共有し、次年度に備えることとした。

2. 学科教員間のFD・学習会

(1) 学科研修会の開催

7月と3月に学科研修会を実施した。「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」「表現法

演習」の経験を学科で共有することを主目的に、4年間の学習効果をどのように高め、また、卒業時にそれをどのように検証するか、などについて、議論した。

(2) 担当者会議の開催

「アカデミックリテラシー」社会学基礎演習」「表現法演習」の学習効果をより高めるため、担当者会議を実施、今後の方向性について確認した。

社会福祉学科

社会福祉学科は、6年前に、ソーシャルワークコースと福祉開発コースの2コース制を導入した。ソーシャルワークコースは主に国家資格を取得し、社会福祉実践現場において専門職として活躍できる人材の育成を、福祉開発コースでは現在の社会福祉制度に縛られることなく、新たなニーズを見出しそれに見合った支援を、一般社会の中で開発していける人材育成を目指している。以上の点を踏まえてFDを行った。以下、その要点について列挙する。

1. アカデミックリテラシーの展開

(1) 新入生アンケートの実施および検討

入学前教育（有料・無料）などに関する「アンケート調査」を実施した。また、その結果についてデータ分析を行い、学科のプログラムなどに反映させた。

(2) 「基礎演習」の内容の再検討

これまで担当してきた教員の意見を聴取し、アカデミックリテラシーの獲得を目指す領域と、専門課程の基礎的内容とを同時並行的に行うことが困難であることを、カリキュラム委員会等で議論した。結果として、2016年度以降、初年次において通年でゼミを開講し、これら二つの要素を半期ずつ履修できるカリキュラム作りを現在検討している。

(3) 「社会福祉学のための日本語」の開講

表記の新設科目を留学生向けとして、2014年度より開講した。担当教員の意見を聴取し、半期では講義内容についていくための日本語力獲得には不十分であるとの結果に至った。従って、2015年度より「社会福祉学のための日本語 A」「社会福祉学のための日本語 B」として、通年で履修できるように改革した。

2. ソーシャルワークコースの教育内容について

(1) コミュニケーションスキルアップ講座の開講

2014年度大学による教学改革支援制度を活用し、「コミュニケーションスキルアップ講座」を2年次開講科目「基礎実習」の一環として開講した。具体的には、受講生を4グループに分け、レクリエーション、ソーシャルスキルトレーニング、アサーティブトレーニング、演劇の表現法を活用したワークショップ、といった、異なる技法を用いた講座を開講した。今後、プログラム内容を検討し、実習前教育として相応しい技法を選択、来年度以降も導入できるよう準備を進めている。

(2) 社会福祉士国家資格試験対策講座の拡充

2013年度より、社会福祉士国家資格受験予定者向けに、有料で試験対策講座を開講していたが、直前対策講座のみであった。しかし、国家試験合格率の向上が目覚ましく、今年度より、直前対策講座に加え、11月から対策講座を開講している。

3. 福祉開発コースにおける教育内容について

(1) 「社会政策論」開講の準備

他学部開講科目であった「社会政策論」が廃止となったため、労働と福祉に関連する科目が手薄になってしまっていることが、課題としてあげられた。2016年度社会福祉学科での開講を目指して、シラバス等を検討している。

(2) 海外ゲスト講師招聘による研究会の開催

2015年1月28日、コロンビア大学よりジャネット・タカムラ、ナジール・カウシャル両教授を招聘し、「高度熟練労働者の国際移住」に関する研究会を開催した。研究会には、他大学、関連省庁からも出席があった。

(3) 特別支援教員養成

特別支援教員養成課程について、教育学と社会福祉学を融合した形態での教員養成を目指し、そうした教育研究に相応しい人材を確保することを夏の研修会で確認した。現在、人材については選考中であるが、今後この課程を福祉開発コースの中で行っているエリア制において、どのように位置付けていくかという課題が残っている。この課題については、引き続きカリキュラム委員会及び夏の学科研修会において、議論を重ねる予定である。また、卒業生の教職採用に関して成果を上げてきているが、これは本学教育キャリア支援課との連携が不可欠であるため、2015年度はより強固な協力関係を形成していく予定である。

法学部

1. 授業公開：春学期と秋学期に教員間で授業公開を行っている。2014年度は、春学期は、5月7日（水）から同月20日（火）の2週間、秋学期は、11月5日（水）から同月18日（火）の2週間、実施した。事前にアンケートで、実施科目、事前連絡の有無等を確認して、授業公開一覧表を作成して、掲示およびメール配布をしている。
2. 定期試験の問題と解説の公表：2013年度から、e-Learning 上または学部オリジナルHP上で、定期試験の問題と解説または講評を公表している。2014年度の春学期定期試験については、8月26日（火）から9月8日（月）まで公開した。秋学期定期試験については、3月11日（水）から3月22日（日）まで公開する予定である。解説・講評の公表が主目的であり、問題の公開は任意である。掲載場所は、e-Learning 上の「講義内容」（開示期間の設定が可能）または「教材」（開示期間の設定は不可）のどちらかであり、e-Learning を使用しない教員のためにHP上の掲載場所も設けている。
3. 法律学科のFD会議：法律学科では、例年秋学期開始時にFD会議を実施している。2014年度は9月24日に1・2年次配当科目FD会議として、民法入門、刑事法入門、法学基礎演習、債権総論について、FD会議を実施した。民法入門については、今回初めて統一教科書にもとづく統一テストが実施され、その講評が行われた。また、11月12日の法律学科会議では、FD会議の一環として、2015年度に新設される1年次秋の「基礎演習2」のモデルシラバスについて検討を行った。また、学科設立50周年を迎える2016年度の授業開始に向けて「基礎演習1」（従来の法学基礎演習）の統一教科書を出版することとなり、12月17日に科目担当予定者の会議を行い、編集方針について話し合いを行った。
4. 消費情報環境法学科の情報処理関係科目のFD会議：消費情報環境法学科では、12月10日に情報処理関係科目（情報処理1～4、法情報処理演習1・2）のFD会議を実施した。ノートPCを忘れる学生（情報センターで借りる学生）の状況と対応、JC推奨機以外のノ

- ートPCを使う学生の問題、レポートのコピペ対策、学科CDなどについて話し合った。
5. 政治学科では頻りに学科会議および研究会を開催し、学科内で十分な意思疎通を図りつつ、教育・研究に取り組んだ。
6. 研究成果を反映した学科での新たな教科書『政治学の扉』を学科教員全員で執筆し、『初めての政治学』の改訂版とともに、風行社から2015年3月に刊行の予定である。

国際学部

国際学科 FD 関連活動

I FD 関連会議の開催

2014年度、国際学科は下記の学科会議・拡大教務委員会を招集した。

○KS 学科会議

6月4日／7月2日／7月9日／10月29日／12月24日／2月17日（予定）

○教務委員会

4月24日／6月18日／10月3日／11月28日／1月28日

II FD 関連の議題

- ・カリキュラムの再編作業、教育指針の再確認
- ・「基礎演習A」と「基礎演習B」の教授内容の区別と性格分け
- ・「遠隔指導」の在り方の再考と「特別演習」の運用規定の作成
- ・「卒業論文」の執筆指導における細部の確認
- ・留学からの帰国者に対する卒論指導の在り方について
- ・「専門外国語」のスタッフ体制について
- ・「インターンシップ」諸科目の問題点の洗い出しと課題の整理

III 教学改革支援プロジェクト関連

2014年4月3日

ライティング支援の方法についての検討会

1. 昨年度の経験と早稲田ライティングセンター視察を経て、今年度からのライティング支援について方向性と方法を確認

豊浩子：添削指導の効果と課題

岩村英之：『学生の求める指導内容』について

－学生アンケートを手掛かりに－

2. 学生の論文指導に関するチュータリングの方法検討

中田瑞穂：大学一年生のための『レポート』『論文』の基本的構成と形式

浪岡新太郎：卒論指導とライティング支援カウンター

3. 新特別TAへ昨年度からの特別TAのからのアドヴァイス

2014年7月14日

ライティング支援プロジェクト実施状況検討会

2015年3月3日（予定）

国際学部ライティング支援第二回ワークショップ

ライティング支援の実際－特別TAの相談例から－

2014年7月9日

アイデア交換会

平山恵 ゼミ運営事例

浪岡新太郎 卒論作成までの流れ

国際キャリア学科 FD 関連活動

I FD 関連会議の開催

2014 年度、国際キャリア学科は下記のように学科会議を 16 回開催したが、そのいずれにおいても、時間の半分以上は学科の FD に関する意見交換であった。

4 月 3 日、4 月 9 日、4 月 25 日、5 月 14 日、6 月 4 日、6 月 18 日、7 月 2 日、
9 月 24 日、10 月 8 日、10 月 24 日、11 月 5 日、11 月 12 日、12 月 10 日、2015 年 1 月
7 日、1 月 14 日、2 月 12 日

II 議論された FD 関連の議題

上記会議において、FD 関連の議題として、特に下記について議論、意見交換した。

- 1) Introductory Seminar の運営の仕方～特に、秋学期のケース～
- 2) Introductory Seminar における講義チームと AEP チームの連動性
- 3) Academic Advisor 制度の運営方法
- 4) Lecture Courses の運営方法
- 5) 二重学位制度および国際インターンシップ制度の運用に関する事前準備
- 6) カリキュラムの体系性を保つために、3つのプログラム (Economics, Political Science, Culture and Sociology) の導入の決定
- 7) 英語授業の質向上のため、上記の 3つのプログラム中の 2つのプログラムで、その上級科目に前提科目を設定することを決定した。
- 8) 本学の Project C - HTM 修了証明書プログラムーの内容に関する議論
- 9) Graduation Projects A & B の評価と公開方法に関する議論 (5 回以上の会合開催)

III 外国語関係 FD 活動

本学科において、Academic English Program 担当者は、2015 年度からの AEP の新カリキュラムに関して、下記の日程で特別 Workshop を開催した。(参加者：田中桂子、Aviva Ueno, Brian Guthrie, Jennifer Igawa, その他)

- 1) 6 月 27 日： 15.00-20.00PM
- 2) 7 月 7 日： 15.00-17.00PM
- 3) 8 月 1 日： 15.00-20.00PM
- 4) 9 月 18 日： 10.00-12.00AM

IV 国際学科との共通の FD アイディア交換会

国際学部では、両学科のまたがる教務委員会を組織し、そこで両学科のカリキュラムに関連する事項について、意見交換をしている。

心理学部

1. 2014 年度第 1 回心理学部 FD 研修会

日時：2014 年 7 月 30 日 (水) 13:30～15:00 場所：心理学部会議室

講師：花田安弘

テーマ：「偏差値を如何にして上げるか」

参加：23 名

2. 2014 年度第 2 回心理学部 FD 研修会

日時：2014 年 10 月 29 日 (水) 12:40～13:50 場所：心理学部会議室

講師：伊藤拓、他 14 名

テーマ：「授業や試験の工夫 1」

参加：23 名

教養教育センター				
年	月日	名称	外部講師	参加人数
2014年	5月28日	外国語担当教員研修会【兼ランゲージラウンジ運営会議】		12
	7月31日	アカデミックテラー担当者研修会		10
	9月24日	外国語担当教員研修会【兼ランゲージラウンジ運営会議】		7
	11月12日	外国語担当教員研修会【兼ランゲージラウンジ運営会議】		10
2015年	1月29日	外国語担当教員研修会【兼ランゲージラウンジ運営会議】		10
	1月29日	アカデミックテラー担当者研修会		13
	2月7日	中国語教員研修会		15
	2月24日	外国語教員研修会（全体会）		（予定）
	2月24日	英語教員研修会		（予定）
	2月24日	韓国語教員研修会		（予定）
	2月24日	スペイン語教員研修会		（予定）
	2月24日	ドイツ語教員研修会		（予定）
	3月3日	キリスト教担当担当者研修会		（予定）
	3月7日	哲学・論理学・倫理学・ギリシア語・ラテン語担当者研修会		（予定）
	3月20日	英語教員研修会		（予定）

以上